

News!

大手門跡北側土塀の工事が始まります！

仙台城の大手門跡の北側にある土塀は、城内で江戸時代から残る唯一の建造物です。令和3年2月・令和4年3月に起きた地震では、漆喰に亀裂が入る等の被害がありました。10月からは、地震前の状態に戻すための復旧工事が始まります！

工事の様子については、今後定期的にお届けしていきます！



この写真は、被災後の土塀の様子です。遠くから見ると、何事もないように見えますが、よく観察すると、漆喰に亀裂が入り剥がれそうな状態がわかります。



Check!

Look!

土塀の中、気になりませんか？

普段みることのできない土塀の内部の様子を、東日本大震災後の修復の様子と共に紹介します。

土塀の骨組みは、粘土と瓦が交互に積まれた版築(はんちく)構造となっています。こうした、建物や建造物全体を構造的に支える骨組部分のことを躯体(くたい)と言います。

この躯体を骨組みとし、最後は漆喰(しっくい)を塗り、仕上げていきます。こうした漆喰を塗る作業は、左官工(さかんこう)と言い、専門の職人さんがコテを使い行います。また、漆喰を塗る前にも、中塗りや下塗りといった、いくつかの段階を経ており、各段階で数ミリ～数センチ単位の厚さで塗って仕上げていくため、熟練の技が必要です。

10月から行っていく工事は、漆喰塗りの作業がメインとなります。工事期間中は足場で覆われ、しばらくの間(令和6年1月末頃まで)、土塀の姿が見えなくなりますが、復旧の様子は定期的に写真等でお伝えしていきます。

躯体(くたい)部分



東日本大震災後の修復の様子

漆喰塗りの様子

